

---

# スマブラ物語

ホームユルスター

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

スマブラ物語

### 【Nコード】

N7283Y

### 【作者名】

ホーミユルスター

### 【あらすじ】

ある悩みを持っていたマスターハンド。その悩みが話を始める！  
集まったメンバーのハチャメチャ生活です！

この小説、下手かもしれませんがどうぞよろしく！  
更新は一週間程度でできるといいな…

## スマブラ誕生！（前書き）

小説スタート！どっぞよろしく！

## スマブラ誕生！

ここは神のみが入れる空間。そこにはニンテンドーの神、マスターハンドがいた。

マスター 「うーん。よし！できた！」

マスターには以前から悩みがあった。それはそれぞれの世界が孤立してしまい交流がほとんどないことだ。

そしてついにその悩みを解決する組織、「スマッシュブラザーズ」ができたのだ。

スマッシュブラザーズとは、各国や星の代表を集め、戦わせたり生かさせて交流しようという

ものである！

マスター 「手紙を送って終了！フッフ…」  
「一月ほど後かな？楽しみだ…」

「ついでにスマッシュユブラザーズ、略してスマブラが完成した。」

## スマブラ誕生！（後書き）

一週間程度で更新できるといいと思いますができないかも…  
個人的に少しシリアスになる傾向がありますので…

## マリオとルイージ

ここはマリオで有名な、キノコ王国。

ルイージ 「にいさん、にいさん、起きてよ。」  
「！」  
もう10時だよ

マリオ 「あと一時間だけ……」

ブチッ

何かが切れた音がした。

ルイージ 「とつとと起きるバカ！」

マリオ 「弟の分際で何言っている「コラァ！」

ルイージ 「にいさん。起きたね。」

マリオ 「あ……………」

そしてマリオが朝食を食べていると、ルイージが叫んだ。

ルイージ 「にいさん！なんかマスターハンドって人から手紙来てるよ！あつ僕にもだ……………」

マリオ 「そんな人知らないけど……………読んでみるか。」

手紙の内容はこうだ。

拝啓 マリオ殿



私はマスターハンド。この世界の神だ。

スマッシュブラザーズ、略してスマブラを作った。  
来てくれ。

まあ、向こうで説明するから来てくれ！頼む！頼む！  
頼むんだ〜！うお〜！

自分でもわかんねーな。ちっ

マスターハンドより

マリオ 「意味不〜！！！！〜！つかなんで神なんだし」

ルイーダ 「でも土管ついてるししばらく仕事もないし行く？」

マリオ 「じゃ、行くか。」

まあ、用意をしたりでどーのこーのたって一時間後

マリオ 「出発！」

てろてろてる 土管の音

マリオ 「結構立派な建物だな。」

そこにあったのはマスターハンドのいると思われるスマブラ合宿所があった……………

ルイージ 「大丈夫かな…怖いよ…。」

マリオたちは恐る恐る扉を開ける。すると……………

中から巨大な手袋が出てきた！

マリ・ルイ 「！手袋！」

マスター 「ようこそ。スマッシュブラザーズへ。私が管理人兼神マスターハンドだ。まあ、こう言うのがしきたりだから怒った風に言っていないけど手袋って言うな！」

マリオ 「なんか怪しい…」

マスター 「まあ、説明は後ですからてきとくに建物を探検とかしといてくれ。あ、部屋鍵は渡しておくから寝ててもいいぞ。この生活は一日中寝ていても怒られることはないからな。私には。」

マリオ 「じゃ、俺寝とく。えつと俺は101か…」

ルイージ 「僕はこの建物を探検するよ！」

そうしてマリオはこれから起こる「何か」を期待し、眠るのであつた。

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

翌朝、マリオは目覚めた。

なんだかいつもより布団が柔らかく、違和感を覚えるとともに飛び起きた。

マリオ 「ううーん……………？……………あれ？ルイージが起こしに  
来ないや……………？」  
「……ここはスマブラ合宿所だった！」

というか、あんたいい年してるんだからそろそろ自分で起きようね〜

マリオ 「……ううーん……」

そんなこんなで起きたマリオはとりあえず着替えて、食堂へ向かう。  
しかし、彼はまだ今が10時だということを知らない。

マリオ 「ルイージ、おはよ……」

ルイージ 「兄さん遅すぎッ！もう10時だよ！明日から8時に起きないと朝食抜き！」

マリオ 「そんな」

マリオはそう言って朝食を食べ始める。

しかししばらくすると見慣れない人がいて尋ねてみる。

マリオ 「……で、その美人と緑の青年と、ピンクボールは誰？」

リンク 「はじめまして、リンクです。緑の青年はちょっとやめといてください。」

サムス 「はじめまして。サムスよ。こう見えてもバウンディングハンター（賞金稼ぎ）をやっていたりするわ。」

カービィ 「はじめまして！ぼく、カービィっていうんだ！ポップスターからやってきたよ〜」

マリオ 「はじめまして！俺はマリオ！よろしく！」

自己紹介が終わるとルイーヂが説明をした。

ルイーヂ 「この三人は兄さんが寝ている間に来たんだ。まったく兄さんはすぐ寝ちゃって…。昨日兄さんが寝たのはまだ5時だよ！」

マリオ 「いや…すまん、すまん。」

そこへ巨大手袋…いや、神であるマスターハンドがやってきた。

リンク 「でた」

マスター 「まあ、そういうな。ところでな、あとよていでは、ひーふーみー…7人来るはずなんだ。まあ、よろしく。」

全員 「それだけ！？というか人数ぐらい覚えておけよ！」



マスター 「うん。」

マスターさん。ここは普通に言っちゃだめですよ。

全員 「黙れ！」

神の声 「……」

マリオとルイージ（後書き）

うーん？みじかいの？ながいの？

## 神の声とコリナ

神の声 「どーも。神の声です。みなさんが寝ている間にちょっと話をしましょう。」

まず、ここはニンテンドーという名の宇宙です。

そしてこの星はスマブラ星です。まあ、すべての星は分かれていて交流がほとんどないのがマスターの悩みでした。そして作ったのがここ、スマブラ星なのです。この星にも大陸などがありますが、その大陸の中で一番でかいブラザー大陸がこの大地です。

その中のスマ国。それがこの国です。今いる町はザース市ですが首都はまた別にあります。

おっと、もうこんな時間。みんなが起きてしまいますね。

ではさようなら〜！」

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

マリオ 「うーん。珍しく4時に起きてしまったな……。あれ？誰かいたような？？」

マスター 「ギクッ！……気のせいでは？」

そんなこんなでついに夜が明けた。

ルイーダ 「ふわーおはよう……リンク、朝食づくり、手伝うよ。」

リンクは朝早起きなのでみんなの朝食を作ることになっていた。

また、リンクほどではなくとも早起きなルイーダも途中から作るのだった。いつもなら。

しかし……

マリオ 「遅いぞ！ルイーダ！遅いから朝食は俺とリンクで作っているからあっち行け！」

ルイーダ 「え！？にいさん！？何でいるの？」

リンク 「まあ、マリオさん、そう言わず手伝ってもらいましょうよ。」

マリオはルイーダからいつもブーブーいわれるので今度とばかりに

！とブーブー言っていたのだ。

そして全員が起きて朝食が終わったところ……

「「「ギヤーツ!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!」」」

フォックス 「な、なんだ？」

フォックスは気になって声のする方角……といっても二方向しかないのだが、その方角に行ってみた。

フォックス 「！サムス！」

サムス 「あら、フォックス？あなたも気になってきたのね？」

フォックス 「……………ああ。ところでこれはなんだ？」

フォックスはルイージの部屋がめちゃくちゃになっているの指さした。

ルイージ 「……………う……………う……………ハッ！僕どうして  
たんだっけ……………？」

???? 「いって〜ウホ！着地失敗…ウホ。」

そこにはゴリラがいた。

マスター 「ドンキー。こんなに荒っぽく来るな！」

フォックス 「知っているのか？」

マスター 「紹介しよう。新メンバーのドンキーコング、略してドンキーだ。」

????? ドンキー 「はじめまして！ドンキーウホ！」

そしてこのことは夕食の時に伝えられ、晴れてドンキーはメンバーとなった…のだがルイーザの部屋を壊してしまったので、部屋を交換することになった。なお、いまはマスターが直している途中である。



## ムキムキおやし

前の話から一週間後……

マリオ 「なんか誰も来なくて面白くないな」

カービィ 「そうだよ！マスターも後6人来るって言ってたし！」

サムス 「今日あたりくるかもしれないわ。エネルギー反応が急速に近づいているわ。」

パワードスーツを着たサムスがそういう。

フォックス 「……なんかまた同じパターンかもな。」

そして今日の夕食……

マリオ 「そういえば今日ルイーザ見かけないな。どうしたんだ？」

マスター 「何か、風邪でねてるとさ。」

リンク 「それでは。」

全員 「いただきます！」

フォックス 「そういえばマスターは食べないのか？」

マスター 「食ってもいいんだが、食べる必要がないからな。神は。」

カービィ 「おかわりー！」

ドンキー 「相変わらずカービィは早いな〜ウホ。」

ドンキーは来たばかりなので見たことはあるがまだ慣れないのだ。

ちよつとそのころ……



ドンキーを除く全員 「またかー。(飽きたよこのパターン)」

作者 「しょうがないじゃん。ちょっといいのが思いつかなかったんだよ。」

全員 「誰!？」

作者 「この小説の作者だよ!ちなみに、神の声は自分がやっていったんだよ。」

マリオ 「へ〜。」

神の声を知っているのはマリオだけ。

作者 「あ、神の声は全般ナレーションだから、そっこのほうは気にしないで。」

こうして作者も交えた夕食が終わったころ……

作者 「じゃ、帰るね。」

全員 「ばいばいー」

全員 (ふう、あいつ帰ったよ。まったくくつるさいな)

ルイージ 「ぼ……僕を忘れるな！っていつか犯人どこ行った！  
？」

ファルコン 「おれはここだ。キャプテンファルコン、ファルコン  
だ。よろしく。」

ルイージ 「よろしく……ってか僕の部屋めちゃくちゃだよ！」

ファルコン 「わりーわりー愛車がぶつかっちゃったぜ。しまつてくるからな。」

ルイージ (あいつムキムキだな……)

その後ルイージとファルコンは発見され、ファルコンは仲間と打ち解けた。ルイージは部屋を交換してもらい、一日が終わった。





## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7283y/>

---

スマブラ物語

2011年12月17日08時52分発行